岡山県糖尿病医療連携推進事業

おかやまDMネット

ごあいさつ

岡山県医師会 会長
松山 正春

生活環境の変化や高齢化等により疾病構造が大きく変化し、生活習慣病が増加しています。なかでも糖尿病は、幅広い年齢層で発症し、様々な病態をおこす病気であるにも関わらず、自覚症状に乏しく治療せずに放置したり、治療を中断する患者が多いのが現状です。

岡山県では、発症予防に向けた啓発活動や早期発見に向けた特定健診の受診勧奨、また、「岡山県糖尿病医療連携推進事業」を実施し、県内の糖尿病に係る医療者の連携体制の構築や人材育成にも取り組んでいます。この事業を通して、予備軍を含めた糖尿病患者に早期に介入することで糖尿病の重症化の予防に貢献しています。おかやまDMネットでは、岡山県をあげての糖尿病対策を県民の皆様に知っていただき、糖尿病の予防に力を貸していただくことを期待しています。

岡山県保健福祉部 部長
西嶋 康浩

糖尿病は放置すると重篤な合併症を引き起こし、本人のQOL低下だけではなく、医療経済にも悪影響を及ぼします。

岡山県では、「岡山県糖尿病医療連携体制検討会議」を平成20年度に設置し、全県的な医療連携体制の構築を進めてきたところであります。

平成24年度からは、医療連携体制のさらなる推進や医療従事者の技能の向上などを目的に、岡山大学病院に「岡山県糖尿病医療連携推進事業」を委託し、糖尿病医療連携ネットワーク（おかやまDMネット）を構築する中で、医療連携の推進、医療従事者向けの研修会の開催や教育資材の提供等を行ってまいりました。さらに、平成30年3月には「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定し、県内の糖尿病診療レベルのさらなる向上と均てん化を進めております。

これらの取組の実施にあたり、多大なご尽力を賜りました岡山大学病院、県医師会をはじめ関係する皆様に心から感謝を申し上げます。今後とも、関係機関・団体の皆様との連携を深めながら、糖尿病対策に取り組んでまいりたいと存じますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

岡山県糖尿病対策推進会議 会長
岡山県糖尿病医療連携体制検討会議 会長
川崎医科大学・川崎医療福祉大学 特任教授
加来 浩平

平素より岡山県糖尿病医療連携推進事業に多大なるご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

さて糖尿病の管理目標は患者さんに健常人と変わらない人生を送ってもらうことにありますが、超高齢社会真っ只中での国民健康推進施策上の課題とまさに合致するものです。2008年の国の新たな医療施策に対応して、岡山県では医師会と行政主導のもとに糖尿病医療連携推進事業が円滑に進められています。その主体となるのが糖尿病医療連携ネットワーク（おかやまDMネット）です。事務局スタッフの献身的な尽力により、DMネットに参加された「かかりつけ医（総合管理医療機関）ハンドブック」の発行、糖尿病診療に携わるメディカルスタッフの育成、さらには「おかやまDMネットジャーナル」の定期刊行など積極的な活動がなされ、医療連携体制の充実と治療レベル向上が図られてまいりました。皆様におかれましては、今後も岡山県の糖尿病医療連携推進事業の更なる充実と強化に向けて、「おかやまDMネット」の活用に一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

岡山県糖尿病対策専門会議 会長
岡山大学病院新医療研究開発センター 教授
四方 賢一

この度は、岡山県における糖尿病対策事業をご紹介し、さらに多くの皆様にご参加頂きたいと考え、この冊子を作成いたしました。

岡山県では、増加する糖尿病への対策として、岡山県糖尿病対策専門会議を組織して「岡山県糖尿病医療連携推進事業」を開始いたしました。この事業では、糖尿病医療連携の推進、糖尿病医療水準の向上と均てん化を目的とした対策と、県民の皆様への啓発活動を進めて参りました。岡山県独自の糖尿病医療連携体制である「おかやまDMネット」では、「総合管理（かかりつけ医）」、「専門治療」、「慢性合併症治療」、「急性増悪時治療」の機能を持つ4つの医療機関を登録して医療連携を推進しています。現在700施設以上の医療機関が登録され、おかやま糖尿病サポーターの認定数は2,000名に達しています。おかやまDMネットでは、機関誌やメールマガジン、ウェブサイトを通して新しい情報を提供しています。また、「糖尿病性腎症重症化予防プログラム―岡山方式―」を策定して、県全体として腎症重症化予防を推進しています。

本事業にご参加、ご協力頂いている多くの皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後も一層のご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

岡山県糖尿病医療連携推進事業のご紹介

1. 目的

高齢化の進展に伴って、糖尿病等の生活習慣病に関する医療の充実は喫緊の課題です。

岡山県では、糖尿病等5疾病について医療連携体制を構築し、効率良く質の高い医療の提供に努めているところであり、地域の医療機関（かかりつけ医）には、糖尿病の合併症の発症が予防されるよう、糖尿病治療の総合管理をお願いする必要があります。また、医師だけでなく、療養指導等を行う看護師、管理栄養士、薬剤師、保健師、理学療法士等メディカルスタッフの役割も非常に重要となっています。

当事業は、県医師会や県の取組と協調しつつ、糖尿病の診療に関わる医師及びメディカルスタッフの資質向上を図り、県民の皆様への糖尿病の予防や治療に関する普及啓発を強力に推進するものです。

2. 岡山県糖尿病対策専門会議

平成24年度から岡山県の糖尿病医療連携体制の構築を推進するため、岡山大学病院が県からの委託を受け、糖尿病医療連携推進事業を実施してまいりました。当事業では、糖尿病対策専門会議を設置し、岡山県における糖尿病医療連携体制における医療の質の向上の方策について検討し、必要により県に施策の提言を行っています。

3. 岡山県糖尿病医療連携推進事業

■医療連携体制の構築とメディカルスタッフの養成

岡山県糖尿病医療連携ネットワーク（おかやまDMネット）では、県内の糖尿病診療のレベルの平準化と地域チーム医療の確立、また情報発信力の強化と医療資源を効率的に分配するシステムの整備・構築を目的とした取組を行っています。

■糖尿病性腎症重症化予防事業

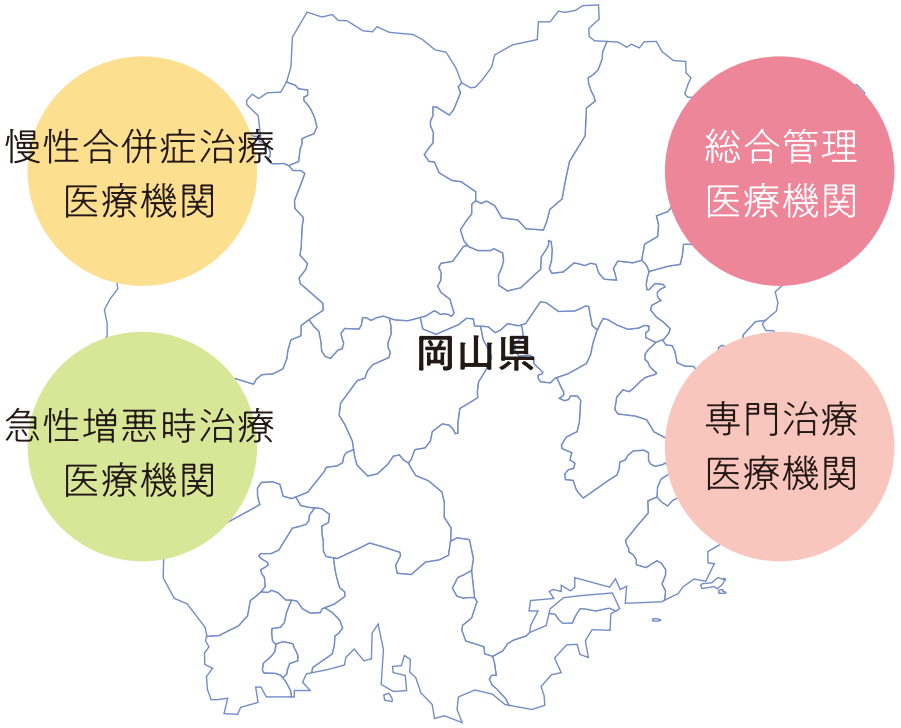
平成28年に日本糖尿病対策推進会議、日本医師会、厚生労働省の間で締結された「糖尿病性腎症重症化予防に関する連携協定」に基づき、日本健康会議が推進する各市町村における「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」の策定・実施に積極的に参画することが各都道府県に求められることとなりました。岡山県においては、平成30年3月に県、県医師会、糖尿病対策専門会議が協同で「岡山県糖尿病性腎症重症化プログラム」を策定しました。

■県民への普及啓発活動

毎年11月14日の「世界糖尿病デー」と全国糖尿病週間に合わせて、糖尿病県民公開講座の開催と啓発用懸垂幕の掲出を行っています。また、県内の建造物が糖尿病撲滅のためのシンボルカラー「ブルー」にライトアップされています。

岡山県糖尿病医療連携推進事業
（医療介護総合確保促進法に基づく岡山県計画）

糖尿病医療連携体制（第８次岡山県保健医療計画）



糖尿病医療連携ネットワーク参加医療機関
おかやまDMネット

- 県内の糖尿病診療レベルの均てん化
- 地域チーム医療の確立
- 糖尿病医療連携の推進
- おかやま糖尿病サポーター（メディカルスタッフ）の育成

岡山県糖尿病医療連携推進事業

岡山県糖尿病対策専門会議
医師会、眼科医会、歯科医師会、看護協会、薬剤師会、栄養士会、糖尿病学会、糖尿病協会、県 等
（事務局：岡山大学病院糖尿病センター）

連携

岡山県糖尿病対策推進会議
医師会、糖尿病学会、糖尿病協会、県
（事務局：岡山県医師会）

連携

政策提言

岡山県糖尿病医療連携体制検討会議
医師会、眼科医会、歯科医師会、看護協会、薬剤師会、栄養士会、糖尿病学会、糖尿病協会 等（事務局：岡山県 健康推進課）　平成20年9月24日～

岡山県医療審議会

おかやまDMネット 登録状況

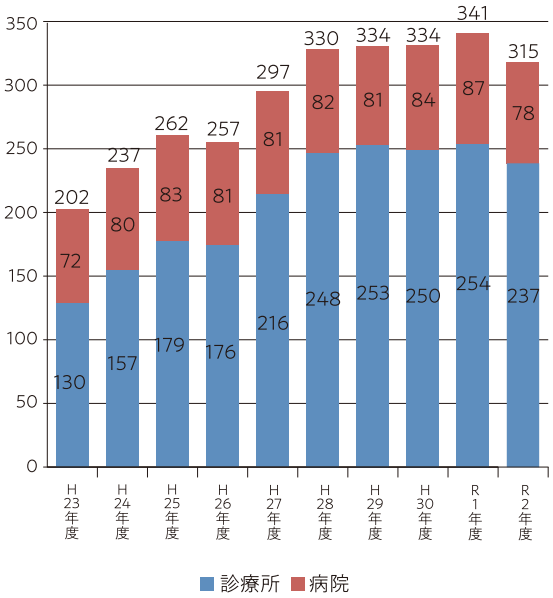
（令和3年3月31日）

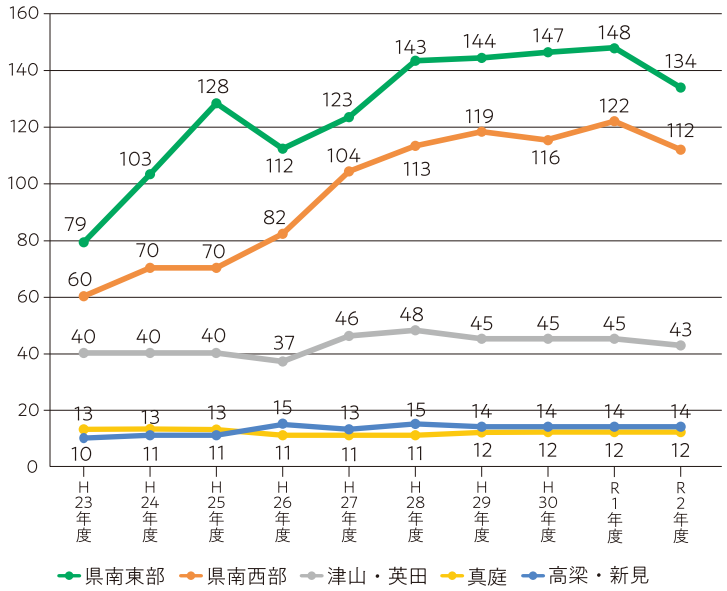
登録施設数

医療機能	届出数	
総合管理医療機関		315
専門治療医療機関		28
慢性合併症治療・糖尿病網膜症	29	396
慢性合併症治療・糖尿病腎症	26	
慢性合併症治療・糖尿病神経障害	37	
慢性合併症治療・動脈硬化疾患	16	
慢性合併症治療・歯周病	288	
急性増悪時治療		19
計		758

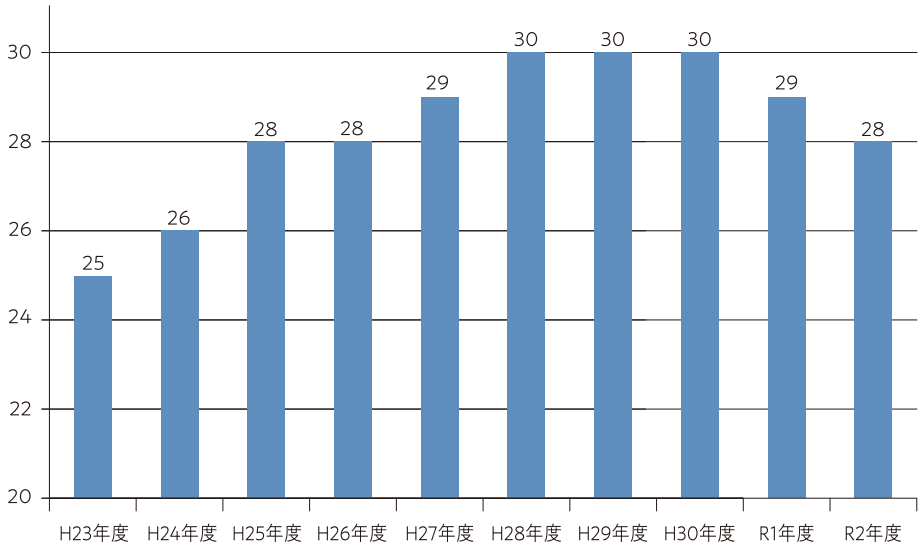
登録施設数の年次推移

総合管理医療機関





専門治療医療機関



R2年度
医療圏別内訳

県南東部：12

県南西部：7

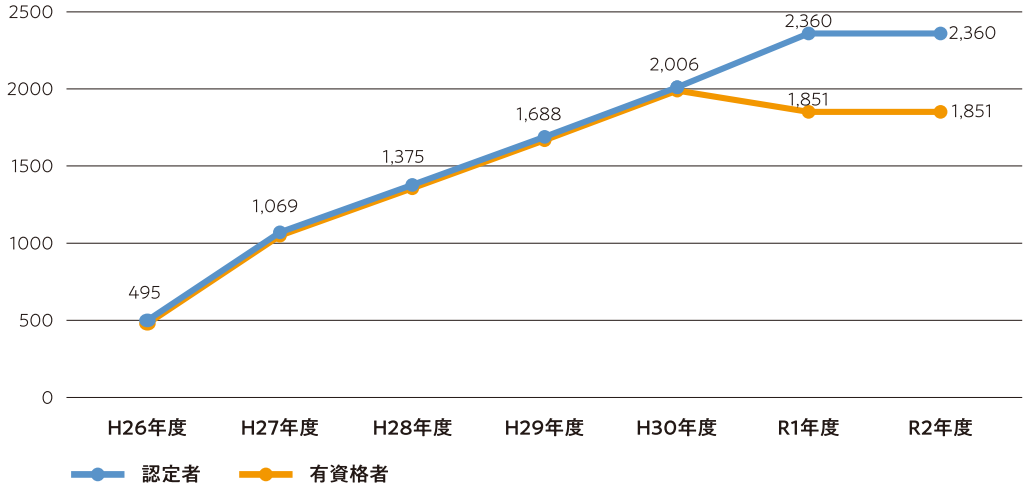
津山・英田：5

真庭：2

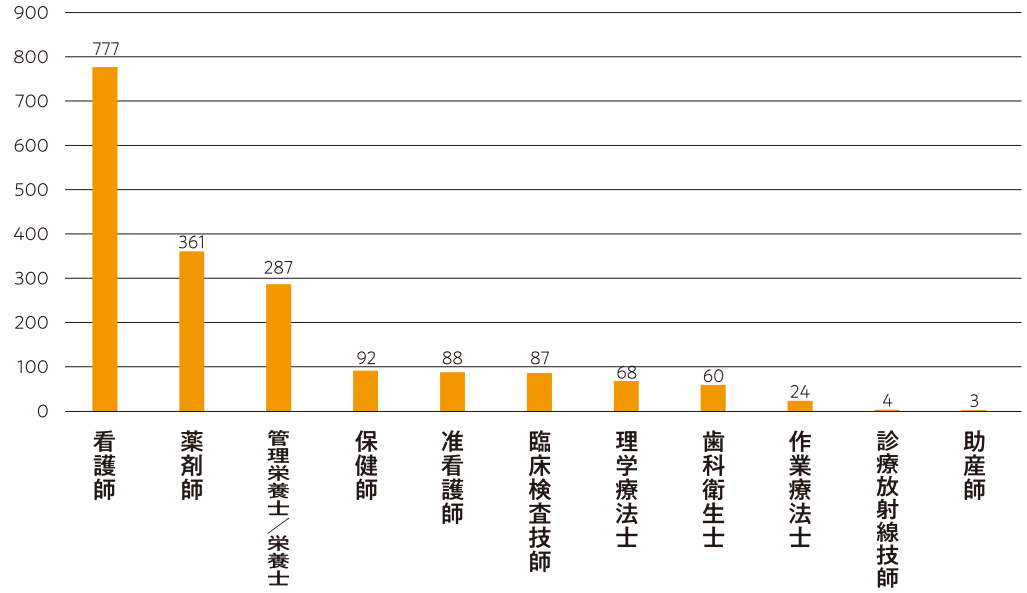
高梁・新見：2

おかやま糖尿病サポーター

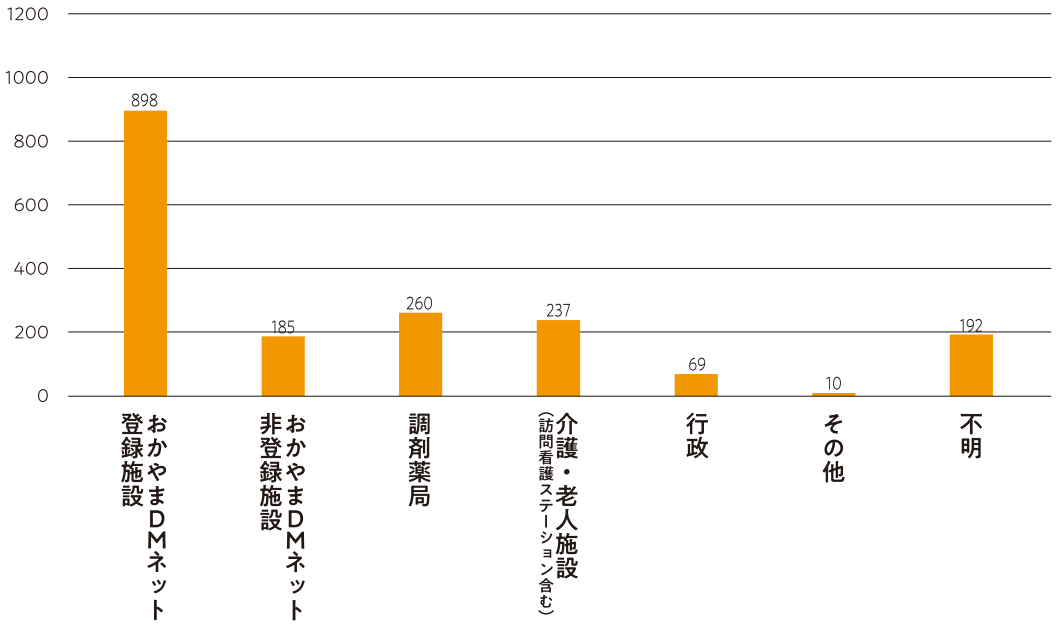
年次推移



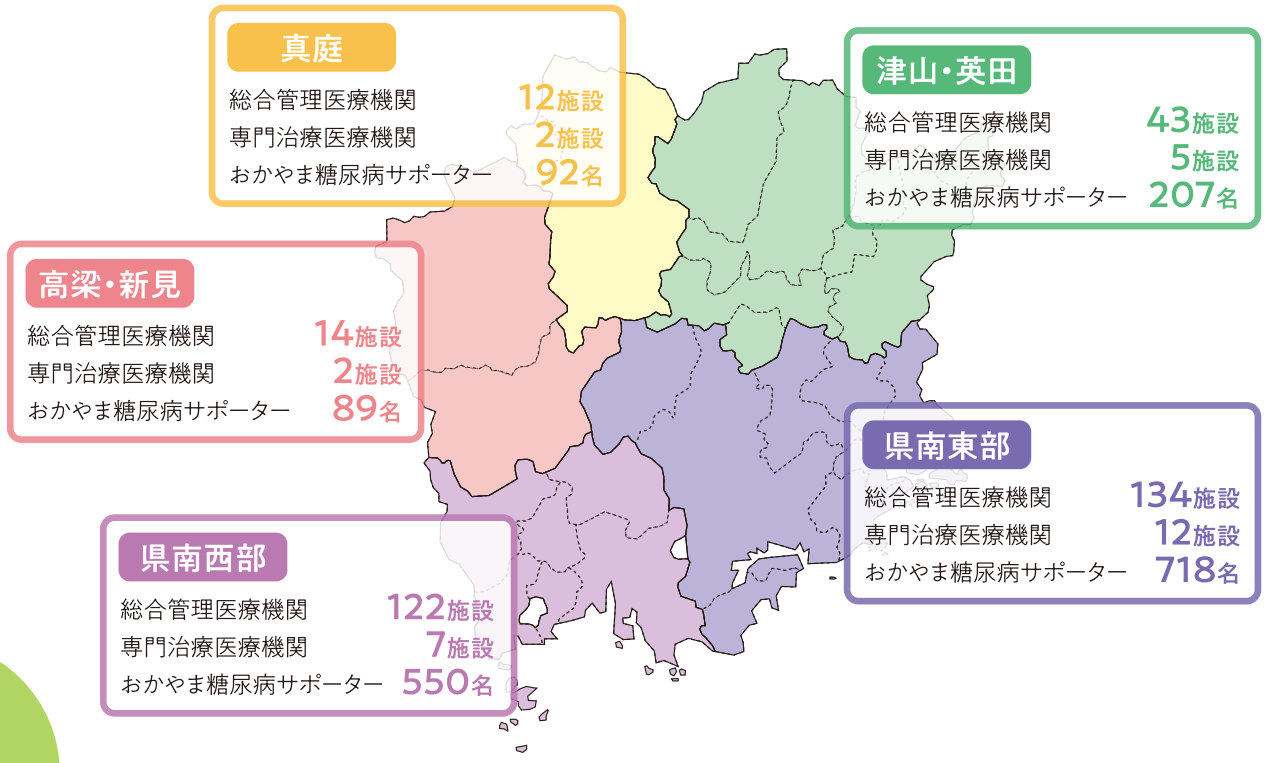
職種別



所属施設別



医療圏別の医療機関とおかやま糖尿病サポーターの登録状況



活動の取組

糖尿病総合管理医療機関の認定制度

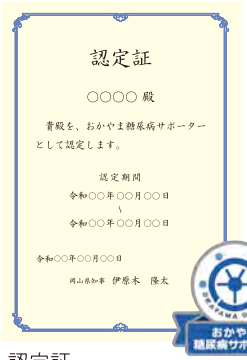
医師を対象とした糖尿病総合管理医療機関認定・更新研修会を開催し、糖尿病総合管理医療機関の認定を行っています。認定を受けた医療機関は、認定後も糖尿病の診断や治療等に関する知識を継続的に身につけていただくため、3年ごとの更新制度としています。

認定証

認定ポスター

おかやま糖尿病サポーターの認定制度

メディカルスタッフを対象とした認定研修会を開催し、おかやま糖尿病サポーターの認定を行っています。認定を受けたメディカルスタッフは、認定後も糖尿病の治療や療養等に関する知識を継続的に身につけていただくため、3年ごとの更新制度としています。



認定証

認定ピンバッジ

認定ポスター

認定対象職種

看護師、准看護師、保健師、助産師、管理栄養士、栄養士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、診療放射線技師、歯科衛生士

◆医科歯科連携

おかやまDMネットにおける医科歯科連携を強化するため、医科歯科連携シートを作成し、総合管理医療機関や専門治療医療機関にご利用いただいています。糖尿病患者さんに対して、糖尿病の合併症のひとつである歯周病を周知するとともに、医科から歯科への紹介の促進を目的としています。

◆介護・高齢者対策

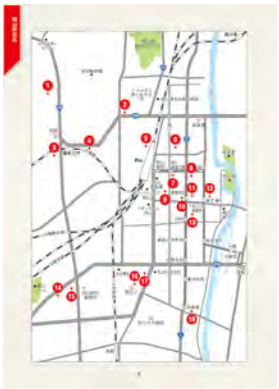
介護・高齢者施設に所属するメディカルスタッフを対象に糖尿病の病態や治療の基本、糖尿病患者さんの介護で必要な知識や技術を取得していただくことを目的として研修会を行っています。

◆機関誌「おかやまDMネットジャーナル」

情報発信力強化策の軸として、平成26年度から機関誌「おかやまDMネットジャーナル」を発行しています。誌面では、糖尿病に関する最新トピックスやおかやまDMネット登録施設の紹介、県内の医療連携の取組の紹介、おかやまDMネットの活動等を紹介しています。

◆糖尿病かかりつけ医ハンドブック

おかやまDMネットの総合管理医療機関を掲載した、「糖尿病かかりつけ医ハンドブック」を発行しています。本誌は県内の医療機関や保健所・支所、市町村や保険者等に配布し、糖尿病医療連携の推進と二次健診への受診勧奨をサポートするツールとしてご活用いただいています。



◆県民への普及啓発活動

毎年11月14日の「世界糖尿病デー」と全国糖尿病週間にあわせて、糖尿病県民公開講座を開催しています。午前と午後の二部制で、午前は健康相談コーナーを実施し、午後は講演会を行っています。

「世界糖尿病デー」ブルーライトアップ

11月14日の国連公認の「世界糖尿病デー」を含む期間を全国糖尿病週間として、日本各地の建物が糖尿病撲滅のためのシンボルカラー「ブルー」にライトアップされます。岡山県においても、岡山城、岡山ターミナルスクエアビル、光生病院、津山城、津山中央病院、城西浪漫館、備中国分寺がライトアップされています。

◆糖尿病性腎症重症化予防事業

平成29年度に「岡山県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定しました。その後、本プログラムで中心的な役割を担う総合管理医療機関向けの診療の手引きの作成や、行政の保健指導実施者や総合管理医療機関等を対象としたシンポジウムや研修会の実施、また保健指導用テキストを刊行しています。

◆おかやまDMネットウェブサイト（https://www.ouhp-dmcenter.jp/project/）

おかやまDMネットウェブサイトでは、様々なコンテンツを展開し、情報発信としての役割のみならず、それ自体に医療連携を促進させる“診療ツール”としての機能を持たせています。月間約3万アクセスあり、多くの方にご覧いただいています。

●おかやまDMネットeラーニングシステム

糖尿病患者さんへの良質な医療の提供を目指し、糖尿病診療に携わる医療者のスキルアップにご活用いただくためeラーニングシステムを構築しています。おかやまDMネット会員を対象とし、糖尿病の疾患概念、治療、併存疾患、療養指導等について学習できるコンテンツを用意しています。

●おかやまDMネット登録医療機関検索システム

おかやまDMネット登録医療機関を検索するページを構築しています。医療機関ごとにページを割り当て、病院紹介や基本情報を掲載しています。医療機能別（総合管理医療機関、専門治療医療機関等）や地区別、地図上から医療機関を検索することができます。

●みんなの情報ひろば（iSOP）

おかやまDMネット登録施設に関連したトピックスや研修会等の情報を配信するコーナー「iSOP（みんなの情報ひろば：Intelligence Square for ODMN（Okayama DM Net） Participants）」を開設しています。

●糖尿病教育資材共有システム（SODET）

県内の専門治療医療機関等で実際に使用されている様々な教育資材や企業が作成した療養指導ツールを掲載するコーナー「SODET（糖尿病教育資材共有システム：Sharing System Okayama for Diabetes Educational Tools）」を運用しています。これにより地域に関係なく、おかやまDMネットの全ての医療機関で専門治療医療機関と同じ資材を使用することが可能になりました。

●DM新着トピックス（DONATS）

糖尿病の新着トピックスや糖尿病薬の最新情報等を配信するコーナー「DONATS（DM新着トピックス：Diabetes Okayama , Newly-arrived Topics）」を開設しています。

DM新着トピックスDONATS
Diabetes Okayama, Newly-arrived Topics

糖尿病に特化した新着トピックスや糖尿病薬の最新情報などをお届けします！

2021/01/05	「SGLT2阻害薬の適正使用に関する Recommendation」の改訂版に、周術期のSGLT2阻害薬の休薬期間が記載されました
2020/12/25	経口GLP-1受容体作動薬である「リベルサス錠」（セマグルチド）が2021年2月5日に発売予定となりました
2020/12/03	SGLT2阻害薬の「フォシーガ錠」（ダパグリフロジン）が国内で慢性心不全に対する効能又は効果の追加承認を取得しました
2020/09/24	新たな投与経路で低血糖を改善させる「バクスミー点鼻粉末剤3mg」（グルカゴン）が薬価収載されました
2020/09/08	SGLT-2阻害薬のダパグリフロジンが2型糖尿病合併の有無に関わらず、慢性腎臓病患者を対象とした腎アウトカム試験で主要評価項目を達成（DAPA-CKD試験）
2020/07/27	非ステロイド型選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬のフィネレノンが2型糖尿病を合併する慢性腎臓病患者を対象とした腎アウトカム試験で主要評価項目を達成（FIDELIO-DKD試験）
2020/07/02	世界初の経口GLP-1受容体作動薬である「リベルサス錠」（セマグルチド）が国内で製造販売承認を取得しました
2020/05/21	新規の超速効型インスリン製剤である「ルムジェブ®注」（インスリンリスプロ）が薬価収載されました
2020/05/21	週1回投与のGLP-1受容体作動薬オゼンピック®（セマグルチド）が薬価収載されました
2020/05/21	持効型インスリンとGLP-1受容体作動薬の配合製剤である「ソリクア配合注ソロスター」（インスリングラルギン/リキシセナチド）が薬価収載されました

SGLT2阻害薬の「フォシーガ錠」（ダパグリフロジン）が国内で慢性心不全に対する効能又は効果の追加承認を取得しました

SGLT2阻害薬である「フォシーガ錠 5mg、10mg」は「1型糖尿病」「2型糖尿病」を適応症としていましたが、2020年11月27日に国内において「標準治療を受けている慢性心不全」に対する効能又は効果の追加承認を取得しました。

この承認については、2型糖尿病合併の有無に関わらず、左室駆出率が低下した心不全を対象としたDAPA-HF試験[1]の結果に基づいています。同試験において、フォシーガは標準治療との併用で、主要複合評価項目（心血管死および心不全の悪化）をプラセボ群と比較して26%低下させ、また、心血管死および心不全の悪化の両者において全体的にリスクを低下しました。安全性についても、本剤のこれまでの安全性プロファイルと一致していました。

小野薬品工業株式会社ニュースリリース

新たな投与経路で低血糖を改善させる「バクスミー点鼻粉末剤3mg」（グルカゴン）が薬価収載されました

「低血糖時の救急処置」を効能・効果とする、新規投与経路のグルカゴン含有点鼻薬である「バクスミー点鼻粉末剤3mg」は2020年3月25日に国内における製造販売承認を取得しましたが、（DONATS 2020/4/6掲載）8月26日に薬価基準収載され、10月2日に発売予定となりました。

これまでは重症低血糖の治療薬としてはグルカゴンの注射製剤が用いられてきましたが、「バクスミー点鼻粉末剤3mg」はディスポーザブルのキットで鼻腔内に粉末を噴霧することで注射製剤と同様の血糖上昇効果を得られるとされています。注射製剤の準備から投与までの煩雑さが軽減されることで、速やかな低血糖からの回復が期待できる薬剤と考えられます。なお、薬価は3mg 1瓶あたり8,368.6円となっています。

●DMなんでも相談室

糖尿病診療に関わる医師やメディカルスタッフが何でも質問できる相談窓口「DMなんでも相談室」を開設しています。相談員は、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーで構成しており、質問者からの治療内容や糖尿病患者さんの支援体制・医療費、介護サービスに関する質問等にお答えしています。

おかやまDMネット登録施設の声

Voice

総合管理医療機関

医療法人 佐藤医院
院長　佐藤 涼介

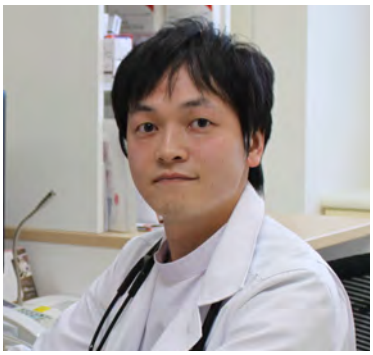
専門治療医療機関や慢性合併症治療を行う医療機関との連携体制について教えてください

当院は岡山大学病院に近いため、重度の糖尿病、特に1型糖尿病や進行した糖尿病性腎不全の方などを中心に、岡山大学病院糖尿病内科や腎臓内科の先生方と細やかな情報の交換を行いながらしっかり連携させていただいています。連携のメリットは、透析やその他の合併症の予防につながることです。さらに連携によって、様々なインスリン、他の薬剤使用方法などに対するアドバイスがいただけ、より知識が深まり医療レベルの向上につながり、とても感謝しています。

院内における糖尿病サポーターの役割や活躍状況について教えてください

当院には1名の管理栄養士が糖尿病サポーターとして勉強させていただいており、糖尿病や糖尿病性腎不全の方々に対して強い思い入れを持って栄養指導を施行しています。また、糖尿病サポーターではありませんが、外来看護師が大勢のインスリンやGLP-1導入時に、注射の打ち方や自己血糖測定方法の細やかな説明や指導を行ったり、低血糖の説明を含めた様々なアドバイスを行っており、これらのスタッフが院長の片腕として大いに活躍してくれています。

総合管理医療機関



医療法人蘭和会 布上内科医院
院長　布上 朋和

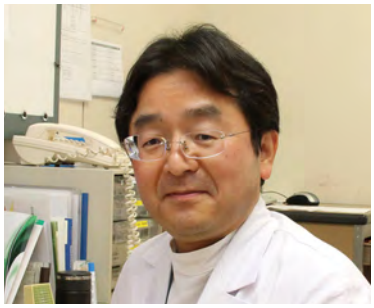
院内における糖尿病サポーターの役割や活躍状況について教えてください

当院は糖尿病専門医や、日本糖尿病療養指導士（CDEJ）資格を持つ看護師・管理栄養士が在籍しており、それらのスタッフを中心に糖尿病サポーターが一緒に診療を支えています。診察待ち時間を利用して合併症管理状況やデバイス使用状況の確認を行ったり、必要に応じて診察後に医師の説明を補完するといった役割を担っており、短い診療時間の中でも患者さんが十分に疑問を解消し満足して帰ることができるよう努めています。最近ではAGPの解析にも加わり、必要な情報を患者さんから効率よく聞き出すこともできるようになってきました。今後ますますの活躍を期待しています。

今後おかやまDMネットに期待する役割や活動は何ですか

日々新たなエビデンスや新しい薬剤・デバイスが登場しています。情報過多ともいえる中、岡山県で糖尿病診療に関わっているものとしてはぜひ知っておきたい「活きた」情報が的確に現場のスタッフ、そして患者さんに届けられるような活動を引き続き期待しています。コロナ禍のなか、研修会なども行いにくく困難なことも多いと思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。

専門治療医療機関



公益財団法人大原記念 倉敷中央医療機構
倉敷中央病院 糖尿病内科
主任部長　亀井 信二

総合管理医療機関や慢性合併症治療を行う医療機関との連携体制について教えてください

まず、糖尿病連携手帳の使用にて情報共有を進めていますが、当院独自の糖尿病治療連携パス作成し、総合管理医療機関との連携を密にしています。この連携パスは前主任部長であった松岡孝先生が作成したもので、当院へ紹介いただき入院治療を施行した糖尿病患者さんで退院後も当院外来通院の必要性がある（例：インスリン量調整や外来療養指導や栄養指導など）症例に対して作成し使用しています。

おかやまDMネットにおける専門治療医療機関の役割について教えてください

おかやまDMネットの取組は県単位としては日本有数の先進的なものであると感銘しています。情報共有ツールについても非常に充実しており、当院でも更なる有効活用を推進して参りたいと考えます。当院に限ったことではありませんが、患者さんの高齢化が進み、指導に長時間を要する症例が増えているため、患者さんの個別のきめ細かな対応に難渋しています。コロナ禍の現在、より効率的な連携や指導にはAIの活用など当院でも新規の対応が必要と考えています。

専門治療医療機関

医療法人社団井口会 落合病院
内科　高橋 泰

総合管理医療機関や慢性合併症治療を行う医療機関との連携体制について教えてください

真庭地域では、岡山県糖尿病医療連携推進事業の開始当初に指摘を受けた専門治療医療機関への受診者偏在や逆紹介率の低さが年毎に改善してきています。総合管理医療機関の先生方やスタッフの方のご協力・ご助言により、糖尿病を地域で連携して診ることへの患者さんや周囲の方々のご理解が進んだことや、専門治療医療機関の態勢改善が促されたことによると思います。今後も連携を進めていければと考えます。

医療連携推進資材や情報共有ツールをどのように活用していますか

糖尿病連携手帳は７～８割の方にお持ちいただいています。今後、患者さんご自身が手帳を記載されることや眼科・歯科などを受診される際に手帳を活用されるよう進められていければと思います。かかりつけ医ハンドブックにより、患者さんに医療連携や紹介先医療機関の情報をお示しすることができます。令和3年6月新病院への移転後には、情報共有ツールを含め医療連携推進資材の一層の活用を行いたいです。

慢性合併症治療医療機関（網膜症）

岡山大学病院
眼科長　森實 祐基

おかやまDMネットにおける慢性合併症治療（網膜症）の役割について教えてください

糖尿病網膜症は本邦の視覚障害の主要原因の一つです。しかし、近年の眼科治療の進歩により、適切な時期に治療を行えば、視覚障害を回避することが可能になってきています。一方で、糖尿病網膜症の一番の問題は自覚症状に乏しいことであり、内科の先生に勧められても眼科を受診しないケースや、眼科通院が長続きしないケースがみられます。眼科治療が手遅れにならないように、内科と眼科の緊密な連携によって患者さんをサポートすることが重要であり、このような医療連携の構築という点でおかやまDMネットが果たす役割は極めて大きいと考えます。

今後おかやまDMネットに期待する役割や活動は何ですか

糖尿病や糖尿病網膜症の診療の質を向上させるためには、内科医、眼科医、看護師、管理栄養士、糖尿病療養指導士といった多職種間の連携が不可欠です。また、医療計画を策定する行政と医療従事者との連携も必要です。おかやまDM ネットには、これらの連携構築を主導していただくことを期待しています。また、勉強会の開催、機関誌の発行等あらゆる活動を通じて、糖尿病診療に関わる者のコミュニケーションハブになっていただきたいと思います。

慢性合併症治療医療機関（歯科）

医療法人 あかり歯科クリニック
河田 有祐

今後、おかやまDMネットにおける慢性合併症治療医療機関（歯科）の役割について教えてください

当院は、倉敷市児島にて地域のかかりつけ医療機関として歯周病を中心に診療をしています。当地では、まだまだ糖尿病と歯周病の関係について認識が低く、歯周病が重度に進行してしまってから受診するなど手遅れな患者さんもいらっしゃいます。その一方で、治療の必要性を説明すれば、ほとんどの方が理解し、治療を受け入れてくださいます。糖尿病が発覚したら、必ず歯科を受診するように今後も啓発活動をお願いしたいと思います。

歯科衛生士の糖尿病サポーターにおける役割や活動状況について教えてください

糖尿病に関連する歯周病を長期的に管理するには、歯科医師による治療の後、歯科衛生士による定期的なメンテナンスが不可欠です。口腔内清掃状況の確認や指導、クリーニングに加えて、日頃の体調の変化や、生活習慣についても患者さんから話をうかがいます。患者さんもリラックスした状態で来院されるので、積極的に会話をしてくださいます。その中で体調や気持ちの変化を察知し、医科と連携していけるように取り組んでいきたいと思います。

おかやま糖尿病サポーターの声

Voice

医療法人紀典会 北川病院

看護師　中原 真佐子

糖尿病サポーターの研修会等で得た知識をどのように業務に活かしていますか

北川病院では吉田院長指導のもと、スタッフチームで糖尿病患者さんを支えています。私たちは糖尿病サポーターの研修で受けた内容を日々の業務に活かし、患者さん個々の考え方、悩み、仕事などの環境問題や家族背景を加味し、患者さん自身が納得し、治療に積極的に取り組めるように、寄り添い、小さな相談にも耳を傾け支援しています。

通常の診察待ち時間を利用し、日々の生活習慣・食事・運動・血糖値・血糖測定等の状況を聞き取り、必要に応じて、フットケア・食事指導・インスリン自己注射などの相談指導を行っています。その際、普段からコミュニケーションを取り、相談しやすい環境づくりを工夫することで、安心感や信頼感を築くことができるよう配慮しています。その結果、患者さんとの信頼関係が築け、糖尿病療養生活の継続とより質の高い支援につながると感じ、今後も患者さんの療養のお手伝いができるよう取り組んでいきます。

訪問看護ステーションくろかみ

看護師　小郷 寿美代

糖尿病サポーターの認定を受けて良かったことは何ですか

この研修を受けて、糖尿病の病態、治療方法などを詳しく知ることができました。そして、このことは、各人の療養環境に合ったケアのあり方を考えるきっかけになったと思います。これまでは糖尿病を患う利用者さんに対して、自分が学んだ知識だけで画一的に看護を提供する傾向にありました。しかし、この研修を受けて利用者さんそれぞれの生活に合った療養方法をともに考える視点を持つことができ、且つ、それを実践できていると感じます。

これから糖尿病サポーターの認定を受ける人へのメッセージをお願いします

糖尿病サポーターの研修では糖尿病を広く深く学ぶことができ、一人ひとりに合ったより質の高い看護を提供できるようになると思います。この研修で学んだことをもとに糖尿病の早期発見・早期治療につなげられたときは、やりがいを感じました。また、糖尿病のより良い治療・ケアの方法を探求する仲間と出会えることも、研修の大きな魅力です。糖尿病に向き合っている方を支えていくために、共に学んでいきましょう!

医療法人吉備会 中谷外科病院

管理栄養士　松本 英子

糖尿病サポーター研修会等で得た知識をどのように業務に活かしていますか

「インスリン注射と血糖自己測定、低血糖のシックデイ対応」の研修会では、実際に血糖自己測定を行いました。チクッとする痛みや血糖値が出るまでのドキドキ感などを経験し、患者さんの気持ちをほんの少し知れたように思います。日々の業務の中では血糖値をただの数値として捉えがちですが、糖尿病を抱えて生きていく患者さんの気持ちにも想いを馳せ、その方に寄り添う栄養指導が出来ればと思っています。

糖尿病サポーターの認定を受けて良かったことは何ですか

私は日本糖尿病療養指導士（CDEJ）ですが、糖尿病サポーターの認定を受けました。CDEJの資格取得は大変ですが、この糖尿病サポーターの認定は取得しやすく、メディカルスタッフの糖尿病療養指導の知識と技術力の底上げには非常に有用な研修会だと感じました。当院は糖尿病総合管理医療機関の認定を受けており、また看護師2名、リハビリスタッフ2名、管理栄養士1名が糖尿病サポーターの認定を受けています。共に研鑽を積み、患者さん一人ひとりにあった療養指導を行っていきたいと思います。

サンファーマシーグループ

薬剤師　立野 朋志

糖尿病サポーター研修会などで得た知識をどのように業務に活かしていますか また、今後糖尿病サポーターとして取り組んでみたいことは何ですか

糖尿病サポーターの認定を受けて、早いもので6年近く経ちましたが、糖尿病の医療連携体制の構築と推進や、県民への普及啓発活動を行うための活動が保険薬局の薬剤師にも求められていることを日々実感しています。保険薬局対象に「調剤後薬剤管理指導加算」が新設され、地域において医療機関と薬局が連携してインスリンなどの使用状況や副作用の有無などについて患者さんに確認するなど、必要な薬学的管理指導を行い、その結果などを保険医療機関に文書で情報提供することが求められており、日々の自己研鑽が欠かせません。糖尿病サポーター認定研修会の存在が、自己研鑽に非常に大きな役割を果たしており、研修会で得た知識を日々の業務で活用させていただいています。個人プレーだけではなく、多くの糖尿病サポーターの方々と連携して、保険薬局の薬剤師としての役割を全うし、地域の皆さまの健康を守るために様々な取組をこれからも続けていきたいと考えています。

勝央町役場健康福祉部

保健師　稲岡 奈なえ

糖尿病サポーターの認定を受けようと思った理由やきっかけは何ですか

以前、形成外科の看護師として、糖尿病性足病変の患者さんや透析患者さんを看護した経験があり、糖尿病が原因で重大な合併症を引き起こすことや合併症から透析に移行する可能性が高いことなどを身に染みて実感していました。そういった経験が基になり、疾病予防や重症化予防について関心を持つとともに、保健指導の際に糖尿病の情報を分かりやすく伝えたり、重症化予防を図ることができるように更なる知識の習得に努めたいと思ったことが認定を受けるきっかけとなりました。

糖尿病サポーターの認定を受けて良かったことは何ですか

糖尿病サポーターの認定を受けたことで、県内の糖尿病医療連携ネットワークや糖尿病に関する情報等を知ることができ、また患者さんに高いレベルの糖尿病治療を受けられるようサポートすることができるようになりました。糖尿病サポーターとして地域の専門治療医療機関を紹介することで、糖尿病の重症化予防にもつながっています。

医療法人社団仁明会 おさふねクリニック

理学療法士　松田 直子

糖尿病サポーターの認定を受けようと思った理由やきっかけは何ですか

東備地域では東備糖尿病療養指導セミナーや東備糖尿病治療懇話会など糖尿病サポーター認定更新の対象となる研修会が定期的に行われています。職場では日本糖尿病療養指導士（CDEJ）や糖尿病サポーターの認定を受けたスタッフが多く、日常業務の中では当然のようにDPP-4阻害薬、SGLT2阻害薬、シックデイ、フットケア、カーボカウントなどの用語が飛び交っています。それらの用語や療養指導への理解を深めるため、この認定を受けようと思いました。

これから糖尿病サポーターの認定を受ける人へのメッセージをお願いします

糖尿病の患者さんと対話していると職域を超えた質問や相談を受けることも多々あります。研修会では、多職種でのグループワークや情報交換の機会があり、臨床現場でかなり役立ちます。糖尿病患者も高齢化していて、運動療法はもちろん、フットケア、合併症によるADL制限などリハ職の介入が必要な場面は増えています。糖尿病サポーターに理学療法士や作業療法士の参加がもっと増えることを期待して、メッセージを送ります。

https://www.ouhp-dmcenter.jp/project/

発行：岡山県糖尿病医療連携推進事業事務局
〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1
TEL:086-235-7209 FAX:086-235-7136